「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Summer 2020

Vol.30

特集

人形たちとつくるコミュニティスポット「ほっこり」誕生

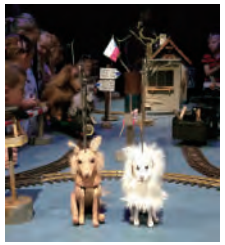
Dogushi Vol.30 2020年7月発行 発行:「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作:NPO法人 いいだ人形劇センター 〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

せかいの劇場vol.9 開催延期します

海外の優れた作品を鑑賞する「せかいの劇場」。2020年度は11月27日・28日にチェコの「ナイブニ人形劇場」を招聘して開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期することに致しました。毎年楽しみにしてくださる皆さまには大変申し訳ございません。

次年度以降、国内外の状況をみながら開催できるよう準備をすすめる予定です。



「こいぬの冒険 CHOO・CHOO・WHISTLE・WOOF!」

●問合せ／いいだ人形劇センター
☎050-3583-3594

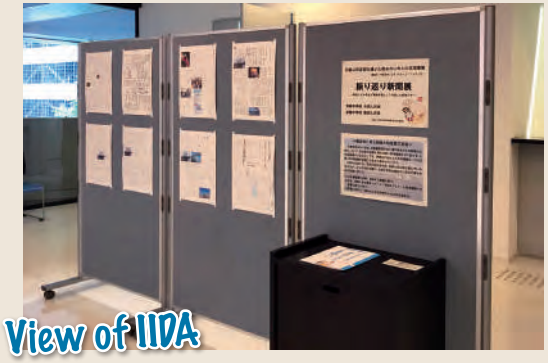
Dogushi

並木さんぽ

2020年度の年間スケジュールのうち、8月までに予定していた催しを中止・延期にしました。現在、市民向けの人形劇講座は段階的に再開しておりますが、9月以降の催しを開催するか、開催するにはどうしたらよいかを模索しています。観る側、演じる側それぞれの安全確保はもちろん、全国の様子を参考にしながら、ふだんの生活の中に“人形劇のまち飯田”の一片が戻るよう知恵を絞らねば。

次号は10月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



昨年12月、「人形浄瑠璃のふるさと」といわれる兵庫県南あわじ市を訪ねた飯田の中学生たち。現在、現地での研修や交流の様子をまとめた壁新聞が飯田市川本喜八郎人形美術館2階交流ゾーンに展示されています。観覧自由・無料(同館ギャラリー観覧は有料)、水曜休館、9月1日まで。

第10回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

雲林県(台湾)

台湾の中南部に位置し、農業が盛んであることから“台湾の台所”と呼ばれる雲林県は、日本統治時代の街並みが残るノスタルジーあふれる場所。なかでも、県庁所在地の「斗六」から車で約30分の「虎尾」は台湾の布袋戯文化発祥の地ともいわれており、国内外から多くの観光客が訪れる布袋戯文化伝承の重要な地となっています。毎年「雲林国際人形劇フェスティバル」が開催され、メイン会場の一つ、虎尾の「雲林布袋戯館」は日本統治時代の役所だった建物です。さらに、同フェスティバルは2008年に「いいだ人形劇フェスタ」と友好提携を結んでいて相互交流が盛ん。昨年は飯田女子高等学校人形劇クラブが同フェスティバルで「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」を上演し、会場を沸かせました。

フェスティバル期間中はもちろん、年間通じて「雲林布袋戯館」の館内や建物前の広場で公演が行われます

特集

人形たちとつくるコミュニティスポット〝ほっこり〟誕生！

今秋、人形劇のもつ不思議な力をつかい、さまざまな立場の方が集い創作できる場が飯田市高羽町に誕生します。この場所を多くの方に活用していただき、ほっこりしたいい時間を過ごしてもらいたいと、愛称を「ほっこり」と名付けました。

NPO法人いいだ人形劇センター
理事長 髙松和子

JR飯田駅から徒歩3分の場所にある民家を利用した建物。以前は明星学園高羽寮でした

NPO法人いいだ人形劇センターはこれまでの活動に加え、この夏から、新しい事業が発足いたします。「（公財）長野県みらい基金」の支援を受けて、人形劇の持つ力をふんだんにつかい、多くの方々に少しでもほっこりした、いい時間を過ごして欲しいという願いから生まれました。

人形劇には、俳優の生々しい演技と異なる魅力、自分の感じたこと・思ったことなどを形で表現し、他人に伝えたり、自分の世界をより深めたり、広げたりする不思議な力があります。この人形劇のもつ不思議な力をつかって、「何かしたいけど人とうまく付き合えない…」、また、「学校には抵抗」がある人たち、「何か始めたいなあなんて思っている高齢者の方々」「赤ちゃんを抱えて外出が難しい」などの人たちがやってきて、スタッフと一緒に思い思いに楽しい時を過ごしていただきたいと考えています。

人形劇の人形はさまざまです。時間をかけてじっくりとつくりこむものもあれば、身の回りにあるものを何かに見立て、即興でつくるものもあります。絵本や紙芝居を読むことから始めてもいいですね。シルエットで自分の手をつかって幻想的な世界をつくるのも面白いと思います。それぞれに「面白いかも！」と思うところから始めてみましょう。できあがったらどこかで上演をという人も、そうでない人も、一度「ほっこり」をのぞいてみてください。

飯田下伊那の市民たちが演じた、いいだ人形劇センタープロデュース作品『人魚姫』（2015年初演・2019年再演）

海外の作品が観られる「せかいの劇場」。2019年は2つの劇団を招聘しました。Lejo『ハンズ・アップ！』（オランダ）、ジョルディ・ベルトラン・カンパニー『Visual Poems』（スペイン）

現在、当センターの人形劇講座で人形をつくっている劇団ころぽっくる。「ほっこり」には製作用の道具や材料が用意されます

9月にイベント・説明会を開催し、9月29日オープンの予定です。一緒に活動していただけるボランティアを募っています。

なお、本事業実施にあたり定期的に自己評価をするため、次の方々にご協力いただき事業評価を行います。棚田昭彦さん（飯田女子短期大学准教授）、植松敏明さん（人形劇団なむなむ）、菱田博之さん（飯田文化会館館長）。

ブタをつくるにしても、選ぶ材料や色、パーツの形や位置によって個性が出ます

（公財）長野県みらい基金が支援する「休眠預金を活用した事業」は長野県内で他に6団体選定されていますので、団体名と事業名をご紹介します。オリエンテーションや研修など一緒に参加しています。

- **一般社団法人ぷれジョブ長野支部〈小海町〉**
  生きづらさのある市民の居場所づくり
- **NPO法人ふくろうSUWA〈茅野市〉**
  働きづらさ解消に向けた支援事業
- **NPO法人子ども・若者サポートはみんぐ〈伊那市〉**
  子どもの居場所とネットワーク推進事業
- **NPO法人Gland・Riche〈安曇野市〉**
  地域巻き込み型共生社会の実現！
- **NPO法人ITサポート銀のかささぎ〈長野市〉**
  ICT学習支援官民協働事業
- **認定NPO法人フードバンク信州〈長野市〉**
  食の循環システム構築事業

（公財）長野県みらい基金とは…

「長野県」の「みらい」を創るために、「資金」、「人材」、「知恵」を生み出し、育み、守る新しい地域循環で、NPO等公共的活動団体を支援し、地域を俯瞰する視点・視座と、地域の課題解決を先導する“力”によって、地域社会へ貢献していきます。

（公財）長野県みらい基金は、長野県が構築した寄付募集制度＝寄附サイト「長野県みらいベース」を運営する法人として平成25年に設立されました。

（（公財）長野県みらい基金 パンフレットより）

第19回 すべての道は飯田へ通ず

紡ぐ人形劇の歴史の中で

人形劇団ちょび　木村陛子

兵庫県西宮の人形芝居えびす座のお二人と飯田にて（筆者は写真右）

「おい、2丁目に〝けこみ〟ないって」
「公民館の〝大黒〟どこ？」
「間に合うかー!!」

私の初飯田はまだ昼も夜中もなく、飯田市公民館の一階は目まぐるしくスタッフの声が飛び交うカーニバルのころでした。昼間は人形劇を観て取材、夜は明朝に間に合うよう新聞づくり。まだコンビニもなく、お金もなく、夜遅くに未成年が入れる飲食店はお米が売り切れご飯にありつけず、お風呂にも入れず、ほとんど寝ず。それでも心揺さぶられる人形劇に出会える飯田では貪欲に公演を観ました。

成人になってからは公民館でプロの人形劇人の宴会に混ぜていただき人形劇談義に耳をダンボにして聞き入り、白熱しすぎてハラハラしたことも少なからず。たくさんの方の人生経験や考え、情熱に触れ、近年のいいだ人形劇フェスタでは地元のお店の方とコラボして〝スナック公演〟〝町中の農村舞台〟などの企画をしながら「飯田の人形劇を歴史に」という壮大な目標に参加し続けられることに誇りを感じています。

新型コロナウイルスでいいだ人形劇フェスタは一年お休みだけれど、人形劇のまち飯田の夢や精神は歴史として続くのです。

次号は「人形劇団きゃべつ村」の井腰 好一さんです

いいだ人形劇フェスタ実行委員会に企画提案し、飯田市本町1丁目「並木横丁いこいこ」の舞台で開催している「町中の農村舞台」。劇人が気軽に交流でき、演じる人も観る人も食べたり飲んだりしながら人形劇を楽しみます

Library Cafe　飯田とつながる世界の人形劇図書資料から㉚

「なかよし」ってなに？ シンポジウムと展示の記録

「なかよし」は現代人形劇のスタンダードといえる脚本。いいだ人形劇フェスタでも毎年のように上演されている程の、誰もが知っている脚本なのに、誰も作者は知らず、という状態だったが、このシンポジウムや資料などを読み解くことでいろいろな流れが見えてきて、原作者や歴史が認識されることで、誰もがもっと「なかよし」を演じることが出来る。

こうした企画や展示は「演じる・観る」だけではない「人形劇の文化」の飯田からの発信に大きな要素となるはずだ。この『シンポジウムと展示の記録』は、文献資料など併せて18頁の小冊子であるがその意義は大きい。

（人形劇の図書館館長・潟見英明）

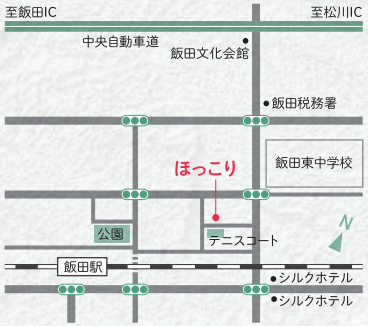
制作：人形劇の図書館（2012年）

人形たちとつくるコミュニティスポット〝ほっこり〟をのぞいてみよう♪

打合せができるスペースもあります

広い流し台は4人が一度に使用できます

およそ12畳あるメインスペース



住所：飯田市高羽町2-5-1
（飯田駅より徒歩3分。高羽町テニスコート向かい側）
※キッチン・冷蔵庫・食器の設備や備品はありますが、調理はできません。人形など制作のための工具・材料は用意あり

私たちがサポートします！

植松敏明さん
人形劇団なむなむ
ひとりぼっちの人形芝居。我流の経験だけ、基礎なし。でも人形劇大好き。

松上清志さん
いいだ人形劇フェスタプログラム評議員
小学校の教員としてのクラブ指導で、人形劇の素晴らしさを知りました。

今村幸子さん
いいだ人形劇フェスタ副実行委員長
30年、小学校で子どもたちと楽しく人形劇をやってきました。

参加費　一人1回200円
開所日時　毎週火曜・木曜の13時～16時（9月29日（火）オープン予定）
※別途アマチュア劇団の利用希望は応相談
問合せ　NPO法人いいだ人形劇センター ☎050-3583-3594

楽しい仲間がやってきた

昨年のいいだ人形劇フェスタでは、初級コースに参加した同期の仲間たちと連続公演を行い『おおきなかぶ』を上演しました（写真左から小寺珠枝さん、倉本愛子さん、松田晶弘さん）

くまっこや一座

いつまでも元気に暮らすシニア世代の居場所づくりをしたいと考えていた松田晶弘さん。自宅のある北安曇郡松川村の「安曇野ちひろ公園」で活動するボランティアスタッフの仲間たちと「くまっこや一座」というグループをつくり、一緒にできるものを求めて、いいだ人形劇センター主催の人形劇講座初級コースに参加したのが2年前。上演する作品は仲間たちで『おおきなかぶ』と決めたものの、登場する7体の人形と小道具づくりはすべて松田さんが担当。「最初は人形のイメージを絵に描くのも一苦労でしたが、一つ一つ人形が出来上がってくると何ともいえないうれしさがありました」と目を細めます。

昨年10月からは中級コースに参加して2作品目『三びきのやぎのがらがらどん』に取り組んでいます。新たに仲間が増え、人形づくりは松田さんと平林しげ子さん、遠藤梨加さんが担当。「一緒につくる仲間がいると張り合いがでていい。飯田まで通うのは時間がかかるけれど、それには変えられない充実感を味わっています」と顔を見合わせて話してくれました。

中級コースでは張り子の人形づくりに挑戦。設計図をもとに粘土でモデリングした後、石膏で型を取りました。「石膏を割って型から張り子を取り出すところがとても楽しかった」と松田晶弘さん

「人形をつくるのに設計図が必要と言われ『なぜ?』と不思議でしたが、つくり進めるうちに納得。設計図どおりに少しずつ人形ができていく工程がとても興味深い」と新メンバーの平林しげ子さん

劇人協会通信

映像と人形・人形劇 その10

日本人形劇人協会理事
深沢 めぐみ

日本人形劇人協会
舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

「コロナ禍のなかで」

今年はオリンピックに日本中が沸く活気あふれる年になるはずが、未曽有の新型コロナウイルスの流行によって各方面に甚大な影響が出ています。人形劇業界・放送業界も例外ではなく、4月7日から発令された緊急事態宣言によって舞台公演やイベント、そして収録現場も全てがストップしてしまいました。

相次いでかかってくるキャンセルや中止の電話やメールに、2011年の東日本大震災を思い出し複雑な気分を味わいました。ただ震災の時は「人形劇で復興支援を」と仕事が無くても何かしらの表現の場がありましたが、行動自粛の今回は身動きの取れない不自由さと「何かしたいけど動くことがはたして正解なのか」というジレンマを感じてしまいました。

収録が出来ない約2カ月、放送自体はオリンピックを見越して先に撮り貯めていたり、再編成したり、リモートで番組を収録したりと、各番組対応が様々でしたが無事やり過ごせました。

さて、5月25日に解除宣言が出て（東京など一部地域では段階的解除ですが）6月から収録も再開されるようになりました。

再開前に「『三密』にならない人形劇収録方法」が話し合われたりしましたが、これがなかなか難しい。介添えなし、演者の間に衝立をする等々。提案されたものがなかなか現実的ではありません。今手探りの中で収録をしていますが、新たな表現方法を模索する転換期なのかもしれません。

普段は素手で操演をしている人もグローブをしたり、薄手のゴム手袋をしたり。スタジオ内にいる際は常にフェイスシールドとマスク着用。ひとつシーンが終わるごとに消毒・室内換気などいろいろ試行錯誤で感染予防

収録中もソーシャルディスタンスでなるべく一人で次の仕込み作業。スタジオの隅で介添えなしに操演が出来るように仕掛けを改良したり創意工夫中!

“人形劇のまち飯田”の情報誌

Dogushiが通巻30号になりました!

人形劇のまち飯田の季刊情報誌『Dogushi』が、本号で通巻第30号となりました。平成25年5月創刊以来、飯田の人形劇にまつわるさまざまなことを取り上げ、専門家による寄稿、世界で開催されるフェスティバルのレポートなど、小さい誌面にたくさんの情報が詰まっています。飯田下伊那の公共施設や飲食店ほか、全国の人形劇関連施設や文化施設などにもありますので、見かけたら気軽に手に取ってください。

「いつもステキね」と言っていただくことが多い表紙イラスト。創刊号から描いてくれるのが飯田市の会社員・井原千代子さんです。今後、新型コロナウイルスの状況をみながら表紙原画展を開催したいと考えています。楽しみにお待ちください。